

---

# 結局逃げられない運命なのです

雲間

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

結局逃げられない運命なのです

### 【Nコード】

N1822T

### 【作者名】

雲間

### 【あらすじ】

異世界に来てしまった普通だったオタクな女の子。彼女がとった行動とは？

学校帰りにトラックに跳ねられました。気がついたらここはどこ、私は誰ってわけじゃないけどそんな言葉が出てくるような、見事に異世界つぷりな光景が私の目の前に広がっていましたとき。ちゃんちゃん。

……じゃなくて。本当になんなんだ。草原っぽいところにいるけれど、なんか色とりどりの色の光がふわふわ漂ってるし、めつつつつつつつちやくちやでつかい木がかなり遠くにそびえ立ってるし。しかも天まで突き抜けちゃってますよ。そんな木、地球にあらへんがなつてことで、異世界決定。夢って線でもいいけど、つねった類は痛いんです。いたたたた。こんな夢みちやう私あいたたと本当は言いたい。言いたいのに。

まあ、来ちゃったものはしょうがないです。私多分向こうじゃ死んでるだろうし。うん。家族は心配だけど、……。心配だ。どうしよう。私が死んだ後処理とか、どうしてるだろう。葬式って大変だし、つか、友達とか私の葬式に来てくれる……。のかな。お母さんに友達少ない子だったのね！ うつつつ！ とか泣かれるのは嫌だな！ ……うん、嫌だ。ああ、来てくれているといいな、友達コミュ障っぽい私が作れた唯一の友達ともたちよ！あああというか私の力オスにカオスを重ねた机の中身とかどうなっちゃってるの！？ あれ、見られたりしないよね！？ ゲツズとか薄い本とか薄い本とか漫画とか小説とかBL小説とからくがきという名の黒歴史とか！ うわああああ心配だ今すぐ帰りたい帰りたいアレを見られるのだけは阻止したいいいいい！

ヒッヒッポー。ひとまず落ち着こう。おほん。私は異世界に来てしまった。さて、どうしよう。ここで小説とか漫画とかだったら貴方は召喚されし勇者様！ 巫女様！ とかなんだらうけど現実はそのもうまくいかないっていうね！ 現に私の居るところはよく分らない草原だし！ 見渡す限りそんなんで、街とか全然見えないから、これは……ここで朽ち果てるフラグか、偏屈な人に拾われるフラグか。そんな人、視界に一人もいないけど。まあ前者しかありませんね！ あはははははははははは……。はあ。べ、別にいいですよーだ。下手に勇者とかそんなんで、ファンタジー大戦に巻き込まれたり、王宮渦巻く陰謀に巻き込まれるとか、一人の男を巡っての女の戦い！ とかやだからね。そういうのは物語として楽しむのだけで十分です。私の人生にそんな波乱万丈なのはいりません！ ……この状況が正しくそうなのかもしれない……けど。

いやいやいやいやちよつとプラスに考えましょ奥さん。あの現世という地獄の世から逃れられたと考えるのよ！ どちらの人間関係……、耐えられない宿題、勉強。親の小言。親、兄弟のうるささ。その他もろもろ。そう！ それらから私は逃れられたのよ！ ら、られたのよ……。駄目だ。逆に恋しくなってきた。やばい。恋しい。うざかったのに。めんどくさかったのに。それがよかっただなんて、そんなこと、なかったのに。

あああああもう！ 一気に恋しくなっちゃって、止まらなくなってきたちゃって、……帰りたい。でも、私は死んでる。……どうしろと。私にサバイバル能力なんてこれっぽっちもないし、オタクで運動嫌いだったのもあって、体力なんか全然ない。よくあるチートあるのかなーって思って走ってみたりしたけど、ものの10秒でダウン。ですよねー。チートなんかしてくれませんかよねー。ばかやるー。異世界に来たんだからそれくらいつけろや！ でもでも、もしかし

たら魔法とかなら使えるかも！ って思って想像、もとい妄想してみただけやっぱり駄目でした。ちーん。

どう考えても無理だ。私この世界じゃ生きていけない。例え街に ついたとしてもコミユ障ぎみな私に新たな人生を切り開けるほどの 力はない。めんどくさがりで、大した能力もない私が生きるには、 過酷すぎる。衰弱死とか、餓死とかでい人生の終わりを迎えそうだ。 嫌だ。絶対嫌だ。衰弱死とか、餓死とか、かなり辛いらしいし！ 徐々に弱っていくとか絶対無理！ 耐えられない！ それくらいな ら高いところからの飛び降り自殺！ 飛び降りだと、落ちてる途中 で気を失って、いつの間にか死んでる状態だつて聞いたことがある …… それだ。飛び降りだ。飛び降りさえすれば後はどうにでもなる ！ うんそうしよう！ てなわけで、飛び降り場所探しに行きまし よー！

かなり歩きました。歩いた！ 私超がんばったよ！ 記憶の中 で一番頑張ったよつてくらい歩いた！ もう歩けないつす。パンパ ンつす。途中途中休憩をかなりいれたけど、それでも史上最大の疲 れだった。まじ疲れた……。夜になつてるし、もうこのへんで寝る しかないかなーって思つて、足を止めようとする、なんと！ 都合 良すぎでしょつてくらい、ふかーいふかーい谷底があつた。…… うん。こんな運はいらなねーですぜ神様。死のうとしてる時に限つ てこつとも都合良すぎるのはそりゃねーですぜ。

ああ、でも。もうこれで、私という人生に終わりが訪れるのかと 思つと、なんだか感慨深いというかなんというか。こんなんで私は 終わりなのかと思つと、…… なんだかなあ。何のために私はいたん だか。最後はトラックに跳ねられる為にいたとかそんなの悲しすぎ るぜべいべ。べいべー！ ……、……。

もういい、いい。虚しい。虚しすぎる。ここには私を知る人はいない。誰も、私を「私」だと証明してくれる人はいない。信じられるのは自分だけ、ただ、一人。一人。一人。一人。私は、一人。独り。独り、孤独。

……無理、だ。

あの暖かい、日本という場所を知っている、私には。

さあ、一步踏み出そう。そしてそのまま、一直線に行ってしまう方がいい。そうすれば、気を失って、私は終わる。行け。行ってしまえ。いくら歩き通したからと行って、一、二歩くらいすぐ行ける。

さあ。私を、終わらせよう。

ふっ、と、違和感。そして、そのまま私は。



私がどれだけ、どれだけ覚悟、したと思っただよ。馬鹿野郎。馬鹿野郎。大馬鹿野郎。もう終わりだと、覚悟したのに。それを、それを……！！

「ふざけんなよ本当にお前ポケナス！ ナス！ ナス！！！！！！」  
「俺はナスじゃないんだけどなあ。ほら、俺金髪だよ？ 目も紫じやなくて青だよ？ 肌も白だよ？」

「るっせーんだよナス王子！ このイケメン！」  
「おお。どうして俺が王子だって分かったの？ 後イケメンって何？ 後ナスじゃないよ？」

「うがあああああああフラグだああああああああああ！！！！！！」

これが、私、『死にたがり』と、『お人好し』ナス王子の出会いでした。……チツ。

「やあ『死にたがり』。今日もよくこんな高さから飛び降りたね」  
「うっせこの『お人好し』！ このナス！ ナス！ 何先回りしてんの！！」

「先回りしてる覚えはないんだけどな。だから俺はナスじゃないよ？」  
「うっがあああああああ！！ お前なんかナスで十分じゃ！！！！」

飛び降りること、数十回。なんかもう飛び降りるのにも慣れてき

ちやいました。あはははははは……ははは。今回は滝から飛び降り  
ました。おかげで全身びちょぬれです。結局出会ったあの後何回も  
飛び降りただけだね！　なのにな！　必ずナス王子がいやがるん  
ですよ！　もうほんとに絶対いるんだよね！　もうなんなんだと  
！　しかも先回りしてないと言ってるけど、お前それ嘘だと！

「てかナス王子あんたなんで私を何回も助ける程暇してんの？　王  
子なんでしょ!?」

「うーん、そうなんだけど。『運命の人』と一緒に紅珠と蒼珠を見  
つけないと、城には帰れない呪いがかかってるし、帰ったとしても  
俺を排除したいやつがいるし、戦争近いから敵情視察も兼ねながら  
旅してるんだよね。俺の妻を決めないといけないのから逃げた、っ  
てもあるけど。後、俺ナスじゃないよ?」

「こ、ここここ、この、全身フラグ王子iiiiiiiiiiiiiiiiiiii  
! ! !」

『お人好し』はフラグの塊でした……。私にフラグがないのはき  
つとこいつに吸い取られたんじゃないかね？　うん、きつとそうだよ……。

「てなわけで Good bye!　ナス王子！　私、貴方に関わり  
さえしなければ大したフラグのない生活ができそうだわ！　ついで  
に頭ぶつけて私のことだけ忘れてね!!」

後々なんか気になって城に連行とかいやだからね！　だから私を  
忘れちゃえば万事オツケー、ナス王子には会わなくてすむ！　そう  
と決まったら即行動！　うらああああああああナス王子殴らせる  
おおおおおお!!!

「だから俺、ナスじゃないってば」

と言つてヒヨイツと軽く避けやがりました。このくそ！ イケメン補正か！ そうなんだな！？ うおおおお天が憎いいいいいいいい！ ぐぎゃあああああつて叫んでたら、ナス王子が急にシリアスな雰囲気だしてきた。なんぞ。今までそんなことなかったのになあ。

「……ねえ、『死にたがり』」

「なによ『お人好し』。急に変な雰囲気にしやがって」

「君は『死にたがり』なのに、今まで生きようと食事をしたり、今後の事を考えるんだね」

「……は？」

別に、生きようとしてるわけじゃない。餓死や衰弱死が嫌なだけであつて、簡単に死ねて痛みがわからない飛び降りしかやらないだけ。ただ、その為だけにまだ私は私を維持しているだけだ。……生きようとしているわけじゃない。それもこれも、

「……あんたが毎回毎回ご丁寧に助けるから、私が生きてんのよ。あんたが助けなけりゃ、私とつくに死んでるわ」

「じゃあ、これあげるよ」

そう言つて『お人好し』が懐から取り出して渡してきたのは、装飾が綺麗な小さいナイフ。使われていないのか、キラリと光る刀身が、美しくも怖かった。

「これで喉をやれば、死ねるよ？」

「……ざーんねんでした。私痛いの嫌なの。だから飛び降りしてんだろうがゴラア」

「痛いのが嫌なのに、死のうとしてるだなんておかしいことしてるね、『死にたがり』」

「こうやってナイフ渡してくる辺り本当に『お人好し』ですこと！」

痛いのが嫌だから、死のうとしてるんだ。もう、心が疲れはてているのに、これ以上痛みを増やしてしまうのは、辛い。家族と会えないのが、辛い。友達と会えないのが、辛い。学校に行けないのが、辛い。心が、辛い。ぼろぼろで、くたくたで。地球では、私を支えるものがあつた。今の私には、なにも残っていない。だから死ぬことだけ考えるのが、他のことを考えないですんで、よかつたんだ。だから。

「もうこれ以上私を助けるな、『お人好し』。いい加減にしろ」「じゃあ、一つ条件がある。それさえやってくれれば、俺はもう『死にたがり』の邪魔はしない。それでいい？」

ナイフをしまいながら、爽やかな笑顔で私に提案するナス王子。……なんか腹黒にしかみえないのは何故だ。じゃなくて。この条件さえなんとかすれば、晴れて私は死ぬ事ができる。開放されるのだ。辛さと、苦しみから。

「……二度と助けんな。絶対に」「うん、分かった。もう助けないから、俺のお願い聞いてくれる？」「いいわよ、聞いてやるうじゃないの」「俺と一緒に滝の中に来て欲しいんだよね」「滝の中あ？ 別にいいけど」

どうやら私が飛び降りた滝の裏には、洞窟があるらしい。そこに一緒に行つて欲しいとのことだ。……良く分らん。なんでそんなこと頼むのかな？ つか、何を考えてるんだ、ナス王子。なんかあるの？ ……宝箱！？ 宝箱があるのね！？ 伝説の剣エクスカリバーがあるのね！？ いや、ちがうか、某ゲームに出てくるふにや

ふにやした青い敵の種族の最強のやつの名前がついた剣ですね！？  
ふっおおおおおおなんかテンション上がってきたあああああ  
あ！

「楽しそうだね、『死にたがり』」

「あ。……べ、別に！ 楽しくなんかないもん！ 伝説の剣あるかなーって思ってただけでべーつになーんにも！」

「あはは、伝説の剣はないかなあ。じゃ、行こう」

そう言って私に右手を差し出す。こういうのするとやつぱ王子なんだなーって思う。今どきそんなことしないよ……ありえないよ……。そんなのは夢と妄想の中だけだぜ、許されるのは。顔をしかめながらも、ナス王子の手を取る。そういや濡れてる私は別にいけど、濡れてないナス王子はどうすんだろうって思ってたなら、魔法で濡れないように、膜みたいなのが王子を覆っていました。ずるい！ っと思ってたら私にも魔法をかけてくれたみたいです。サーセン、ナス王子。ついでになんかしたのか、ちょっと寒かったのが暖かい……これが王子ってやつですかい。れでーふあーすと慣れてない私にはむず痒くてしかたがありませんわ！

洞窟の中はどこかから光が入っていて、そんなに暗くない。ちょっと道がデコボコっとしてて、たまーに足をすべらせるけど、ナス王子が支えてくれたりする。うげげげ、やつぱむずがゆいっす。れでーふあーすと恐るべし。

最終地点にあったのは、神殿にあるような、白い台座。サファイアの宝石を、そのまま丸くしました！ って感じの野球ボール程の大きさの玉があった。王子はそれを見ると、恐る恐るそれに近寄っていく。まだ手つないだまんまなんで私も一緒ですがね！



「……ナス王子は酷いね。私に生きる理由をあたえちゃうだなんて。私、究極のめんどくさがりなんだよ。楽に物事が運ばないとすぐふてくされるし、コミュニケーション上手くできないし、運動だつて駄目。ぐーたらすごしてた私を連れてどうするの？ 私言えるよ？ 絶対役に立てないって。私は物語の主人公なんかじゃない。だから途中で死んじゃうかもしれないし、特別力があるわけじゃない。足引つ張りまくりのイライラしっぱなしまちがいなしだよ？ それでも、『お人好し』は連れていけるとでも？ 『死にたがり』の私を？ 絶対後悔することまちがいなしだねっ！！」

さて、ナス王子。これをどう返すつもり？ 『お人好し』のナス王子がどう返すか見物だね！ こんなに面倒くさい私をどうするんでしょうね！？ 小説とかだったら一目惚れとか恋愛云々で返すんだろうけど、ここは『現実』だ。んなことあるわけがない。どうする、ナス王子？

「『死にたがり』、君の言う通りで、イライラしたり後悔したりすることもあるかもしれない。でも、俺には君が必要なんだ。我が国が滅んでしまつかもしれない。滅びは避けたいからね。そして、君は『運命の人』だから」

「……結局必要なのは『死にたがりな私』じゃなくて、『運命の人の私』なのね」

分かってましたよ。んな少女漫画じゃないんだから、『死にたがりな私』を求められるわけがないってね。死にたがってる私しか見てないんだから当然といえば当然。でも、ちよつとは夢見たってよかつたじゃん……。女の子なんだから、それくらい夢見たって当然でしょ？ 今までの鬱憤を込めた、ため息ついていると、ナス王子が手のひらをぎゅっと握ってきた。びっくりしてナス王子の方を見る。

「でも」

「……」

「落ちてくる『死にたがり』を救いたかったのは、義務とかじゃない。君だったから。普段の俺だったら、襲撃かと思って殺してたからね」

「……どうやら地味にフラグたつてたみたいです。現実なのに。なんで。なんで。なんでそうやって期待させるかな？ほんとにやめてほしいよね。私は乙女だ。たとえ腐っていようとも、お、乙女だ。キュンとこないわけじゃないですか……」。

『死にたがり』の私になくなったわけじゃない。でも、ナス王子が私を必要としてくれている。誰かの、役に立つことが出来る。この異世界で生きる理由のなかった、私が、それが、嬉しくて。胸からなんか、込み上げてくる。たとえどんな理由であっても。

私は、この世界にいるのだ。

「……いいよ、教えてあげるよ。私の名前をさ、ナス王子」  
「だからナスじゃないよ？」

こうして、私と王子のフラグにまみれた冒険が始まってしまったのです。結局、フラグからは逃げられないことがよく分かりました。だって、これは私の『物語』なんだから、……なんてね。

あーあー柄じゃないことはするもんじゃないね！ それでは、あ

1501

(後書き)

以降解説。

物語の「主人公」である以上、絶対になにかしらフラグがあり、逃れることはできない。

これもまた、小説である限り、「死にたがり」はその補正がかかる訳です。

・『運命の人』：【俺の『運命の人』】とは一言も言っていない。あくまでただの『運命の人』であり、それ以上それ以下でもないのです。

・『お人好し』が助けた理由：これも『運命の人』であつたが故に助けたのであつて、「死にたがり」本人だったからではない。

このまま物語が進んでも、小説の主人公である『死にたがり』は、たとえ等身大の学生という設定であつても、主人公補正を発揮して、なんとかいけるわけです。

救いがあるようでないような、そんなお話。

本人たちは色々ありますが、結局幸せ……なのかもしれない。

す……分……り……じ……ら……い……で……す……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1822t/>

---

結局逃げられない運命なのです

2011年8月16日00時54分発行